

## 竹田陽介・小巻泰之『マクロ経済学をつかむ』正誤表

### unit0

1. 9 ページ, 上から 7 行目  
誤) 「意図しない遺産」  
正) 「意図した遺産」.

### unit2

2. 32 ページ, 重要ポイント図 1-3 (代替効果と所得効果)  
誤) 図中の点 C の位置 (点 C は点 B の北東方向に位置している)  
正) 図中の点 C の位置 (点 C は点 B の北西方向に位置している)

### unit4

3. 53 ページ  
下から 8 行目  
誤) 財政収支 (fiscal deficit: FD) とプライマリー・バランス (primary deficit: PD)  
正) 財政赤字 (fiscal deficit: FD) とプライマリー・バランス (基礎的財政収支; primary deficit: PD)  
下から 6 行目  
誤) プライマリー・バランスとは,  
正) 財政赤字とは,  
下から 4 行目  
誤)  $PD_t = B_{t+1} - B_t = G_t + r_t B_t - T_t$   
正)  $FD_t = B_{t+1} - B_t = G_t + r_t B_t - T_t$   
下から 3 行目  
誤) 一方, 財政収支とは,  
正) 一方, プライマリー・バランスとは,  
下から 2 行目  
誤)  $FD_t = (B_{t+1} - B_t) - r_t B_t = G_t - T_t$   
正)  $PD_t = (B_{t+1} - B_t) - r_t B_t = G_t - T_t$   
下から 1 行目~54 ページ 1 行目  
誤) プライマリー・バランスの赤字のみならず,  
正) 財政赤字はプライマリー・バランスの赤字のみならず,

4. 54 ページ

図 1-9 (財政収支とプライマリー・バランスの推移) の凡例

誤) —— 貯蓄投資差額

正) —— 財政赤字

上から 5 行目

誤) 財政収支とプライマリー・バランスは

正) 財政赤字とプライマリー・バランスは

**unit7**

5. 80 ページ, 下から 6 行目

誤) 固定費を圧縮できず, 食費を削減することもみられ,

正) 固定費になる食費を圧縮できず, 食費以外の支出を削減することもみられ,

**unit10**

6. 124 ページ, 下から 4 行目

誤) 1999 年の産業計・企業規模計の実績値

正) 2002 年の産業計・企業規模計の実績値

**unit12**

7. 150 ページ

下から 6 行目

誤) 資本の限界生産力  $\frac{\partial r_t}{\partial k_t}$

正) 資本の限界生産力  $\frac{\partial Y_t}{\partial K_t}$

下から 5 行目

誤) 労働の限界生産力  $\frac{\partial r_t}{\partial L_t}$

正) 労働の限界生産力  $\frac{\partial Y_t}{\partial L_t}$

**unit13**

8. 155 ページ, 図 3-8 (推移式) の一番下の図

誤)  $c_y^* = aw^*$ ,  $c_o^* = (1-\alpha)w^*(1+r^*)$

正)  $c_y^* = aw^*$ ,  $c_o^* = (1-\alpha)w^*(1+r^*)$  (y と o を c の下付き文字にする)

9. 159 ページ, 上から 1 行目,

誤) 労働に対する分配の和に等しくなる。

正) 労働に対する分配 ( $w_t L_t$ ) の和に等しくなる。

#### unit16

10. 183 ページ, 下から 6 行目

誤) そして,  $1 - \pi_{t+1} \equiv \frac{P_{t+1}}{P_t}$  として

正) そして,  $1 + \pi_{t+1} \equiv \frac{P_{t+1}}{P_t}$  として

#### unit17

11. 189 ページ, 上から 10~11 行目

誤) 中央銀行のみから成る政府の予算制約式

正) 中央銀行のみから成る政府の予算制約式および貨幣市場の均衡

#### unit18

12. 200 ページ, 下から 13 行目

誤)  $k_t = a_t$

正)  $k_t = a_t - b_t$

13. 201 ページ, 図 6-1 (重複世代モデルにおける市場), (3) 資本

誤) 供給

$$a_t$$

正) 供給

$$a_t - b_t$$

#### unit19

14. 206 ページ, 下から 2 行目

誤) 区別してあげている

正) 区別して挙げている.

15. 207 ページ, 上から 4 行目

誤) いずれか

正) いずれかの

16. 208 ページ, 上から 9 行目

誤) 変数の「動学的」な推移

正) 変数の推移

## unit21

### 17. 225 ページ

上から 1 行目,

$$\text{誤) } Nm_{t+1} = \frac{\theta Nw_t(1+i_{t+1})}{i_{t+1}} = M$$

$$\text{正) } Nm_{t+1} = \frac{\theta Nw_t(1+i_{t+1})}{i_{t+1}} = \bar{M} \quad (M \text{ を } \bar{M} \text{ に})$$

上から 5 行目と 6 行目

$$\text{誤) } M_{t+1} = \frac{\theta(1-\beta)Y_t(1+i_{t+1})}{i_{t+1}} P_t \quad \frac{M_{t+1}}{P_t} = \frac{\theta(1-\beta)Y_t(1+i_{t+1})}{i_{t+1}}$$

$$\text{正) } \bar{M} = \frac{\theta(1-\beta)Y_t(1+i_{t+1})}{i_{t+1}} P_t \quad \frac{\bar{M}}{P_t} = \frac{\theta(1-\beta)Y_t(1+i_{t+1})}{i_{t+1}} \quad (M_{t+1} \text{ を } \bar{M} \text{ に})$$

10 行目

$$\text{誤) } \frac{M_{t+1}}{P_t} = \frac{\theta(1-\beta)Y_t(1+r_{t+1})}{r_{t+1}} = \theta(1-\beta)Y_t \left(1 + \frac{1}{r_{t+1}}\right)$$

$$\text{正) } \frac{\bar{M}}{P_t} = \frac{\theta(1-\beta)Y_t(1+r_{t+1})}{r_{t+1}} = \theta(1-\beta)Y_t \left(1 + \frac{1}{r_{t+1}}\right) \quad (M_{t+1} \text{ を } \bar{M} \text{ に})$$

図 7-2 (LM 曲線)

$$\text{誤) } \bar{P} \uparrow \text{ or } M \downarrow$$

$$\text{正) } \bar{P} \uparrow \text{ or } \bar{M} \downarrow \quad (M \text{ を } \bar{M} \text{ に})$$

### 18. 226 ページ, 下から 7 行目

誤) 名目貨幣供給量  $M$

正) 名目貨幣供給量  $\bar{M}$

### 19. 227 ページ, 上から 13 行目

誤) 推移式を以下のように求める。

正) 推移式を以下のように求める (ただし,  $\alpha = 0$  より  $\hat{\alpha}_t = 0$ )。

## unit22

### 20. 239 ページ, コラム, 図 8-1 (名目賃金変化率の分布)

誤) (出所) 黒田祥子・山田勲

正) (出所) 黒田祥子・山本勲

### unit23

21. 244 ページ, 上から 11 行目

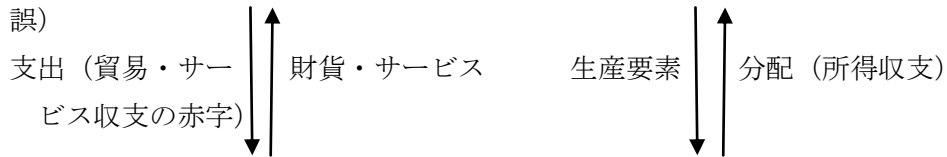
誤) 貨幣需要が減少

正) 貨幣需要が**増加**

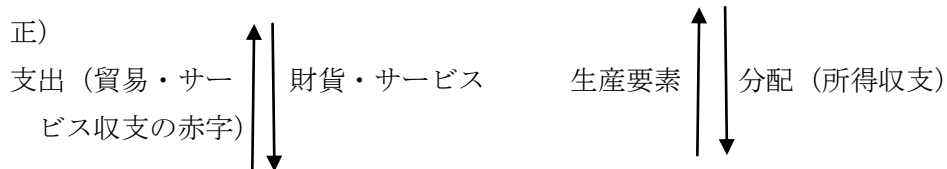
### unit24

22. 251 ページ, 図 9-1 (開放マクロ経済), **矢印の向きを逆にする**

誤)



正)



### unit25

23. 262 ページ, 下から 8 行目

誤) このとき, 貨幣の利子弾力性を決める

正) このとき, 貨幣の**所得**弾力性を決める